



中部大学春日丘高校 SGH課題研究

グローバル課題4領域について知り・気づき・探る学習

～ 医療・福祉 ～

●開催概要

- ◆ 日 時:平成 29 年 7 月 1 日 (土)3～4 時限 [10:50～12:40]
- ◆ 場 所:中部大学春日丘高等学校 東校舎 2 階会議室
- ◆ 参加者:啓明コース及び国際コース1年生(計 127 名)
- ◆ 講師: AHIアジア保健研修所 林かぐみ氏

●講演 (ネパールの話)

1976 年に、ネパールの僻地の病院に 3 カ月間派遣された、ある日本人医師の話から講演はスタートしました。生徒には事前に英文の資料が配付され、指名された生徒が音読し、要約しながら進められました。

48 歳の川原医師は、海外医療協力会からネパールの病院に派遣され、ただ一人の外科医として働くことになり、早朝から深夜まで休みなく働きました。ある時患者を診察した川原医師は、2 週間後に再び診察に来るように言いました。その患者は「無理ですよ、先生」と言います。なぜなら、彼は川原医師の診察を受けるために、1 週間歩き続けて、ようやく病院にたどり着いたのだから…。それを聞いた川原医師は、この地域の抱える問題に初めて気づきました。

日本に帰った川原医師は、ネパールの人のために自分に何ができるか、自問自答します。再び自分がネパールに行って医療行為を行うことはもちろんできるが、果たしてそれが最善のことなのだろうか…。悩んだ末に川原医師は、自分がネパールに行くのではなく、ネパールの医療ワーカーを日本に招き、治療法や予防法をトレーニングするための研究所を作ろうと思立ちます。自分一人が医療行為を行うより、多くの医療ワーカーを育てる方が、予防法を広める方が、はるかに多くの健康を生み出すことができると考えたのです。

川原医師は夢の実現のために、志を同じくする友人と、計画について何度も何度も話し合いました。

健康は財産である。それは正しいのだけれど、現状では多くのお金と多くの時間がある人だけが健康を手に入れることができる。しかし健康は、すべての人の権利であるはずだ… 1980 年、とうとう川原医師の夢が叶い、研修所の設立にこぎつきました。彼こそが、川原啓美氏、AHI アジア保健研修所の設立者です。



講演の様子



講演メモを取る生徒たち

●講演（研修所の役割）

アジアの貧しい地域の人々は、病院に行ったときには、もう手遅れになっていることが多かったそうです。貧困ゆえに幼い子供も家事労働をしなければならず、なかなか病院にも行くことができません。一体どうすれば健康を守れるのか。大切なのは「病院の外で健康を守る」こと。医師はもちろん大切です。しかし、医師にかからなくてもいいように、一人一人が自分の健康を守れるようにすることはもっと大切。

色々な国から保健ワーカーを招いて、自国での取り組みの発表や交流をし、保健ボランティアの育成をすることがアジア保健研修所の役割です。自国に帰った保健ボランティアが地域の人々に薬草の作り方を教えたり、病気の予防法を教えたり、一人一人ができることを増やすことを目的としています。

また、体と心、両方が伴っていなければ真の健康とは言えないとの考えから、差別を受けている少数民族の支援、災害後の健康作り活動、食生活指導など、様々な支援をアジア各国で行っています。

—「すべての人々の健康は、みずからの手の中にある」—



グループで話し合う生徒たち



質問をする生徒

●ふりかえり（感想）

- ・専門の機関にすべて任せることより、分業する方が何事もよい方向に行くのだろうか。
- ・医療の発展には、海外の協力だけでは不十分なので、途上国の人々が地域で協力することが大切になってくる。
- ・情報、知識が不足しているので、やはり教育は大切なのだと思った。
- ・東南アジアにおける医療の発展の方法が分かりました。
- ・世界中の人々が健康になるためには、自分のことだけを考えていきっている今の世界を変えていき、つながりを強める必要があると思いました。
- ・日本は恵まれていると改めて感じた。たくさん工夫しなければ病院がまわっていかない国も多くあり、その国のために私たちができることはあるのかと疑問に思った。
- ・世界では、まだまだ男女差別が残っている所があるのだと分かった。
- ・交通手段の整備も大切だけど、知識を教えることを優先的にやるべきだと思った。
- ・日本は医療が発達しているので、とても幸せなことだと改めて思った。
- ・「病院に行くことでさえ困難な人はたくさんいる」という言葉がとても印象に残りました。
- ・民間での組織は政府の組織には届かなかった声を救ったりすることができるということが分かりました。
- ・大事なことは、専門家からの助けだけではなく、民間のボランティアが研修を受けて、周りの人と知識を共有することだと分かった。
- ・たくさんのケースがある中で、保健ボランティアさんは適切な判断をするのに迷わないのかなと思った。
- ・「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」について、もっと詳しく知りたい。
- ・医療がまだ発展していない国として、アフリカのイメージはあったけど、アジアの現状についても知ることでよかった。
- ・ボランティアの育成などの、医者が直接関与しないような活動が他にもあるのか知りたい。